

平成30年度

沼津工業高等専門学校自己点検・評価報告書

(年次報告)

沼津工業高等専門学校

【目次】

1. 現況及び特徴		P-1
2. 目的		P-3
3. 事項毎の自己点検・評価		
A.入試	(トピックス)	P-5
(自己点検・評価表)	A100 入試制度の改善	P-7
	A200 入学志願者確保の取り組み	P-8
B.教務	(トピックス)	P-9
(自己点検・評価表)	B100 3つの方針(準学士課程)	P-11
	B200 授業関係・成績評価	P-12
	B300 教育改善の取り組み	P-13
	B400 特別課程	P-16
C.学生	(トピックス)	P-17
(自己点検・評価表)	C100 学生の諸活動	P-19
	C200 学生の健康・安全	P-20
	C300 就学支援	P-21
D.寮務	(トピックス)	P-23
(自己点検・評価表)	D100 学寮生活指導	P-24
E.専攻科	(トピックス)	P-25
(自己点検・評価表)	E100 3つの方針(専攻科課程)	P-26
	E200 専攻科授業・成績評価	P-26
	E300 長期インターンシップ	P-27
F.研究・社会連携	(トピックス)	P-29
(自己点検・評価表)	F100 研究	P-31
	F200 社会連携	P-31
G.国際交流	(トピックス)	P-33
(自己点検・評価表)	G100 国際交流	P-35
	G200 留学生支援	P-36
X.学校運営	(トピックス)	P-37
(自己点検・評価表)	X010 ガバナンス・リスク管理	P-39
	X020 コンプライアンス	P-40
	X100 将来計画	P-41
	X110 人事・財務	P-42
	X130 施設整備	P-43
	X140 安全衛生	P-45
	X200 自己点検・評価	P-46
	X500 優れた教員の確保	P-47
	X510 教員の資質向上	P-48
	X520 教育支援者の資質向上	P-50
	X800 業務改善	P-51
	X900 外部組織との連携	P-51

1. 現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校
2. 所在地	静岡県沼津市大岡3600
3. 学科等の構成	<p>準学士課程：機械工学科 電気電子工学科 電子制御工学科 制御情報工学科 物質工学科</p> <p>専攻科課程：総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース 新機能材料工学コース 医療福祉機器開発工学コース）</p>
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	<p>特例適用専攻科（専攻名：総合システム工学専攻）</p> <p>JABEE認定プログラム（専攻名：総合システム工学プログラム）</p> <p>その他（ ）</p>
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：1111人 教員数：専任教員78人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>沼津工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、産業界からの技術者養成に対する強い要望に応えるため、昭和37年4月に高等専門学校の一期校として2学科（機械工学科、電気工学科）で創設された。以後、時代の要請に伴い、昭和41年に工業化学科を設置、昭和61年に電子制御工学科を設置、平成元年に工業化学科を物質工学科に改組、平成4年に機械工学科の1学級を制御情報工学科に改組、平成8年に専攻科（3専攻）を設置、平成11年に電気工学科を電気電子工学科に名称変更し、準学士課程5学科、平成26年度には専攻科課程を3コースに改編し、現在に至っている。</p> <p>本校では、創設以来、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」との教育理念の下、静岡県東部地区唯一の国立高等教育機関として、地域産業に寄与する社会的使命と役割を認識しつつ、時代の変化に即応しながら、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者を養成することを目的に教育を行っている。</p> <p>この教育理念や目的に基づき、(1)低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて全人教育を行うとともに、(2)コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者、(3)実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者、(4)教員の活発な研究活動を背景にした創造的技術者の養成を教育方針に掲げ、「進取の気風に富み、幅の広い豊かな教養と質の高い専門の工業技術の知識を身に付け、新たな発想の下に、技術革新を担うことができ、企業から信頼される指導的な実践的技術者の養成」を実践してきた。</p> <p>教育課程の特徴は次の通りである。準学士課程においては、低学年では一般科目を多く配置し、高学年になるにつれて専門科目を多く配置する楔形カリキュラムを編成し、実験・実習及び情報技術を重視した5年間一貫の体験的早期専門教育を実施している。また、専攻科課程においては、準学士課程の教育成果を基礎として、さらに高度な知識と技術の修得を目指しており、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備え、地域社会の産業と文化の進展に寄与する技術者を育成するために、産業界との学術的な協力を基礎に教育研究を行っている。</p> <p>産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者を養成するために、平成16年度に設置された地域共同テクノセンターを核として、地域企業との共同研究・受託研究が活発に行われている。平成29年度には地域創生テクノセンターと改称するとともに、国立高等専門学校機構支援事業「“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ」で採択された「未来創造ラボラトリー」（インキュベーションルーム）を設置し、より地域企業と密着した教育・研究を目指している。</p>	

平成 21 年度に静岡県東部地域の産業振興への寄与を目的とした文部科学省科学技術振興調整費事業「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム」(通称 F-m e t) が採択され、以来地域との共同教育による医用機器開発エンジニア養成の中核を担ってきた。平成 24 年に静岡県東部地域が国から「ふじのくに先端医療総合特区」に認定されたことに伴い、平成 25 年には F-m e t 事業が「医療機器総括製造販売責任者及び責任技術者に対する認定講習」に認定され、さらに平成 27 年には文部科学省「職業実践力育成プログラム (B P)」にも認定された。既に 9 期生が修了し、修了生は延べ 78 人となっている。プログラム修了生の有志により F-m e t + という組織がつくられていて、医用機器開発に関する情報交換、勉強会、ものづくりなどの活動を進めており、活動を通して医用機器の製品化の実績を挙げるなど、沼津高専は地域の医用機器開発産業振興の核として根付いている。

平成 27 年度には文部科学省「地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (C O C +)」に、静岡大学が提案し採択されたプログラム「静大発“ふじのくに”創生プラン」に参画し、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの開発と実践に取り組んでいる。

知財教育も推進しており、平成 29 年度パテントコンテストで学生が「優秀賞」を受賞するとともに、学校としても「パテントコンテスト/デザインパテントコンテスト 文部科学省科学技術・学術政策局長賞」を受賞した。

「“KOSEN (高専) 4.0” イニシアティブ」では学内の国際化を目指して、「学内留学を中心としたキャンパス国際化」事業を通してできるだけ多くの学生が留学生・異文化に接することを目指している。

以上の通り、本校では地域産業との連携を取りつつ、社会の要請に応えながら、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者を養成のための教育を実践している。

2. 目的

沼津工業高等専門学校 の 使命

本校は「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ。」を教育理念として掲げ、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、豊かな教養と専門の工学とを身につけた社会から信頼される、指導力ある実践的技術者を養成し、静岡県東部地区唯一の国立の高等教育機関として地域の文化と産業の進展に寄与し、ひいては日本の産業界に貢献する有為な人材を世に送り出すことを使命とする。(沼津工業高等専門学校学則 第1章本校の目的第1条)

教育研究活動の目的、方針、学習・教育目標、養成すべき人材像

1. 教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与すること。

2. 教育方針

- (1) 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- (2) コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- (3) 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- (4) 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

3. 学習・教育目標

本校は、学習・教育目標として、学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- (1) 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- (2) 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- (3) 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- (4) 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- (5) 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

4. 養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

学科・専攻科等ごとの目的、目標

上記の教育目的、学習・教育目標は準学士課程共通であり、さらに専門学科、教養科ごとの目的は以下のである。専攻科では、上記の教育目的、学習・教育目標を基本として、より具体化した教育目的を設定している。

1. 準学士課程

(1) 機械工学科

機械の開発・設計・製造・評価・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

(2) 電気電子工学科

電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

(3) 電子制御工学科

電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

(4) 制御情報工学科

コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

(5) 物質工学科

化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成することを目的とする。

(6) 教養科

専門学科の教科を学ぶために必要な基礎学力を身に付けさせ、技術者としてのみならず社会人としての幅広い教養と人間性を育成することを目的とする。

(沼津工業高等専門学校の教育理念等に関する規則)

2. 専攻科課程 (総合システム工学専攻)

高等専門学校の教育における成果を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力を基礎に教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的とする。

この目的を実現するため、本校の学習・教育目標を基礎におき、より具体化した高い学習・教育目標を以下のように設けている。

(1) 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力和多面的考察力

(2) 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢

(3) 工学的な解析・分析及びこれらを創造的に統合する能力

(4) コミュニケーション能力を備え、国際社会に発信し、活躍できる能力

(5) 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を計画的に進めることができる能力と姿勢

専攻科には3コースが設置されていて、コースごとの目的は以下のとおりである。

(1) 環境エネルギー工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

(2) 新機能材料工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学分野を支える基盤材料として、鉄鋼・非鉄・セラミック材料、生物材料などを包括して学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

(3) 医療福祉機器開発工学コース

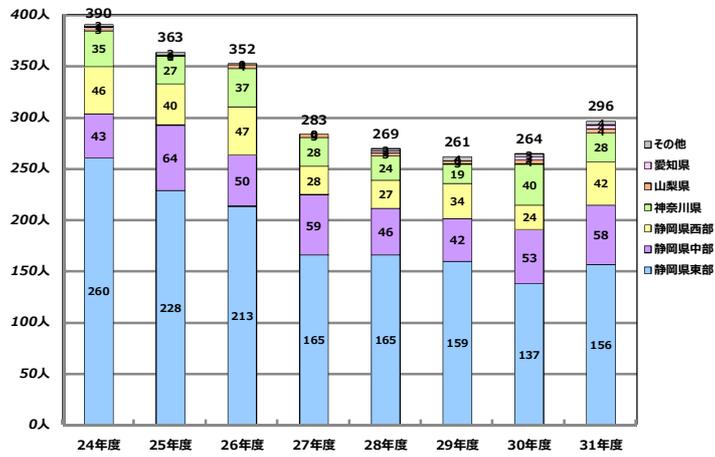
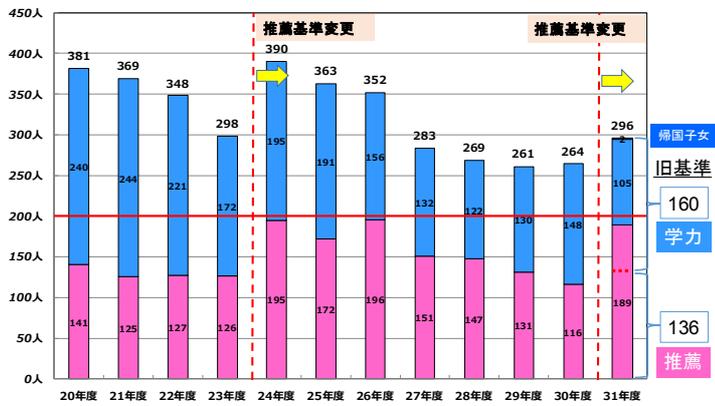
機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

(沼津工業高等専門学校学則第9章専攻科第45条)

A.入試

- ・ 平成 31 年度入試での主要な実施方法は次の通りである。
 - (1) 推薦選抜において、推薦基準は 9 教科の平均評定が 4 以上であること、ただし、数学・理科は 4 以上であることと変更した。(変更前は 5 教科の平均評定 4.4 以上 (数学・理科は 4 以上)、4 教科の平均評定 3.7 以上)
 - (2) 推薦書による加算点を廃止。面接員 3 名による個人面接に変更。調査書 (内申点) 45 点と個人面接 30 点で判定する。
 - (3) 学力選抜における判定方法は前年度から変更なし。(試験科目 5 科目のうち数学・理科は 1.5 倍, 学力検査 600 点と調査書 (内申点) 160 点で判定する。)
 - (4) 前年度に引き続き、帰国子女学力選抜試験を実施した。
 - (5) 試験会場として、沼津高専、浜松、下田、小田原に加えて、甲府で実施した。(長野高専と合同開催)
- ・ 今年度の志願者の状況をまとめると以下の通りである。(次ページの図参照)
 - ・ 推薦選抜による志願者が 73 名増加して 189 名となり、学力選抜と合わせた全体では 296 名 (前年比 32 名、12%増) となった。志願倍率は 1.48 倍に向上した。
 - ・ 静岡県東部・西部の志願者の増加が大きかった。神奈川県志願者は減少した。学力試験会場を新設した甲府会場の志願者はいなかった。
 - ・ 帰国子女受検生は 2 名で、うち 1 名が合格した。
- ・ 今年度の入試をまとめると次の通りである。
 - ・ 中学校訪問、教育後援会の親カフェなどの取組みに加えて、推薦基準の変更により志願者増に結び付けることができたと考えられる。
 - ・ 下田会場及び甲府会場については、一層の入試広報の努力を行うことが必要である一方、今後の試験会場の設置の効果については慎重に判断する必要がある。
 - ・ 来年度入試に向けて、推薦選抜の基準、面接方法などについて再確認することが必要である。学力選抜についても、合格判定方法における学力検査得点と調査書 (内申点) との配分などの再確認が必要である。
 - ・ アドミッションポリシーに適う学生が確保できているかどうかは、入学後の学生の成績、活動などを継続的に観察することが必要である。

志願者状況 (20~31年度)



年度	選抜種別	受検者	合格者	合格率	種別合格率
H31	推薦	188	101	53.7%	86.7%
	推薦不合格	85	62	72.9%	
	学力	106	44	41.5%	
	学力	294	207	70.4%	
H30	推薦	116	99	85.3%	99.1%
	推薦不合格	17	16	94.1%	
	学力	148	96	64.9%	
	学力	264	211	79.9%	
H29	推薦	131	100	76.3%	100%
	推薦不合格	31	31	100%	
	学力	130	77	59.2%	
	学力	261	208	79.7%	

A.入試

区分項目	A100	入試制度の改善
No.	A100-005	
基準項目・関連番号等	基準6 準学士課程の学生の受入れ(6-1-②)	
具体的取組事項	・毎年度、新入生に対する入学動機に関するアンケートを実施し、APの理解度を確認する。また、確認結果は、次年度入学者選抜の改善検討資料とする。	
実施内容	・平成31年度受検生から出願書類のアンケートにおいて、本校アドミッションポリシーに沿った設問を設けた。 ・新入生に対しては入学動機に関するアンケートを実施し、APの理解度を確認した。また、確認結果は、次年度入学者選抜の改善検討資料としている。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	A100	入試制度の改善
No.	A100-504	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項(入学者の確保)」1-1-(1)-④	
具体的取組事項	①入学者の学力等について継続的に分析を行うとともに、現行の入試制度や選抜基準等が妥当であるかについて検証を行い、必要があれば入試の見直しを行う。	
実施内容	①総務委員会において、入試成績と1年次成績の比較分析等を行った結果、入学後の学力と中学校の内申点に最も相関がみられることから、本年度も現行の入試制度を継続していくこととした。 ・今年度に引続き、本校及び浜松、県南東部の下田地区及び神奈川県西部地区の小田原、山梨県地区の甲府と5会場体制で受検者の便宜を図る。 ・推薦選抜における推薦基準を見直し「9教科平均4以上(数学・理科は4以上)」としたほか、推薦書による加算点を廃止した結果、推薦選抜受検者数は昨年度より73名増の189名であった。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	A100	入試制度の改善
No.	A100-505	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項(入学者の確保)」1-1-(1)-⑤	
具体的取組事項	①入学者の学力水準の維持、向上を目指すとともに、入学志願者数の確保を最優先課題として取り組む。	
実施内容	①入学者の学力水準の維持、向上を目指すとともに、入学志願者数の確保(広報活動の充実や選抜基準の見直しなど)に継続して取り組んでいる。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	A200	入学志願者確保の取り組み
No.	A200-501	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（入学者の確保）」Ⅰ-1-(1)-①	
具体的取組事項	<p>①学力入試の会場について、昨年度同様の4会場に長野高専との合同会場として山梨県に1会場を加えた5会場で実施し、受験生の利便性を向上させる。</p> <p>②従来の広報活動、体験入学等は引き続き実施する。</p>	
実施内容	<p>①学力試験会場を1会場追加し、5会場（沼津高専、浜松、下田、小田原、甲府）で実施し、受験者数は昨年度より26名増の189名であった。</p> <p>②5月から7月にかけて教務担当教員による中学校訪問を98校に対して実施し、10月から12月にかけて全教員体制により、県内及び、山梨、神奈川、愛知の中学校（115校）に対し、中学校訪問を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も静岡県、山梨県、神奈川県、愛知県東部の中学校（498校）へ入試案内のパンフレット等を送付した。 ・中学校主催の高校説明会（12校）に参加した。 ・ホームページを活用した情報発信（入試案内や入試広報）を継続して実施した。 ・本校開催のイベント等や研究・教育活動の情報を新聞社等に積極的に情報提供し、ホームページにも随時情報を掲載した。 	
自己評価 (特記事項)	A	

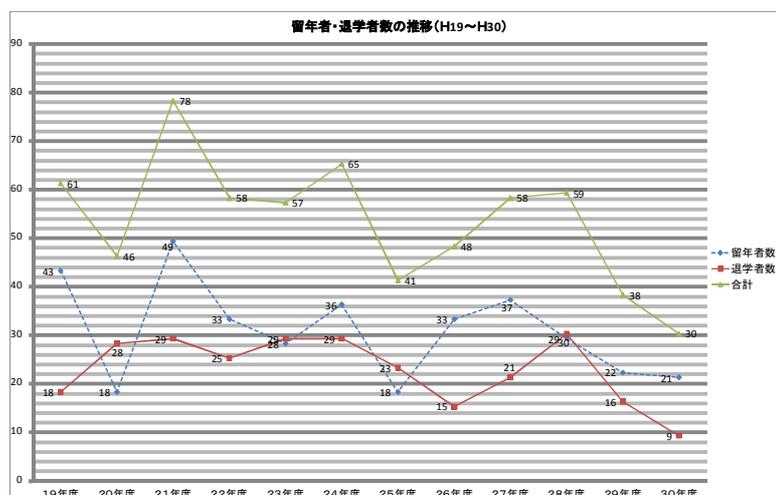
区分項目	A200	入学志願者確保の取り組み
No.	A200-502	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（入学者の確保）」Ⅰ-1-(1)-②	
具体的取組事項	①昨年度に引き続き、オープンキャンパスや入寮体験など様々な広報活動を行う。	
実施内容	<p>①昨年度に引き続き、体験型オープンキャンパスとして「一日体験入学」、「中学生のための体験授業」、「ミニ体験授業」、「出前授業」を、見学型オープンキャンパスとして「進学説明会」、「キャンパスツアー」を実施した。</p> <p>「一日体験入学」は8/4実施（1,052名が参加）、「中学生のための体験授業」は9/30に実施（中学生182名が参加）、「ミニ体験授業」は高専祭期間中（11/10,11）に実施（497名が参加）した。「出前授業」は全25テーマをホームページ等で提示して募集を行い、地元中学校や公民館等で12回実施した。</p> <p>「進学説明会」は11回開催し、中学生・保護者・中学教員ら1,113名が参加した。また学校見学会として「キャンパスツアー」を実施し63名の参加があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校女子学生のインタビュー記事を掲載した入試広報パンフレットや「KOSEN×GIRLS」を各種の広報イベントで配布するなど女子学生の志願者確保に向けた取組を行っている。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	A200	入学志願者確保の取り組み
No.	A200-503	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（入学者の確保）」Ⅰ-1-(1)-③	
具体的取組事項	①中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料(NCToday)を静岡県、山梨県、神奈川県、愛知県東部に配布する。	
実施内容	<p>①中学生やその保護者を対象とする本校独自の広報資料2種類（リーフレット及びパンフレット）を作成し、県内264校及び近隣県（山梨県81校・神奈川県104校・愛知県49校）の中学校へ配布するとともに、高専機構に本校の広報誌や掲載写真を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高専機構作成の女子中学生向けパンフレット「KOSEN×GIRLS」を各種の広報イベントで配布するとともに、「広報用映像」DVDを披露するなど高専全体のPRに努めた結果、女子の受験者数は推薦選抜42名、学力選抜26名（内推薦選抜受験者10名）であった。昨年度の女子受験者数と比較して、推薦選抜17名増、学力選抜3名増となり、女子受験者数の確保に繋がったと思われる。 	
自己評価 (特記事項)	A	

B.教務

- ・ モデルコアカリキュラム教務関係規則等に関する重要事項を審議するため教務小委員会を19回、教務委員会を10回開催した。
- ・ これまで開講されていたミニ研究を発展的に解消し、課題研究を開講することとなった。課題研究のテーマ募集、テーマの適否、成績認定に関して審議した。
- ・ 今年度入学生からモデルコアカリキュラム(MCC)全面実施となった。MCCが授業で確実に実施されていることを確認できるように、授業完了報告書を制定した。これにより、改善を要する点を次年度シラバスの作成時に反映できるようにした。実験・実習のスキル評価についても各科に実施を依頼した。モデルコアカリキュラム実践拠点校として、Web会議に参加した。
- ・ MCC導入とともに、CBT(Computer Based Testing)が導入された。数学を1、3、4年、化学を2年、物理を3年で実施した。CBT実施のために、技術室の支援を得て、コンピュータ演習室の日程調整、実施説明を行った。
- ・ 1～3年生の留年生については、単位制の考え方を取り入れて、前年合格科目については科目の特性、成績などを考慮して、履修しなくてもよい科目とし、学生の負荷軽減を図る措置を導入した。該当する13名が年度末に進級したことから、効果的であったと判断される。
- ・ 今年度から15週の授業を実施した後、評価のための試験を実施することとした。中間試験は15週の授業には含めないこととし、周知した。これにより、試験返却を期末試験終了後の1日で実施することが必要となり、試験の返却方法を検討した。また、授業アンケートについても、Office 365を用いたWebアンケートに切り替えて実施した。回答率が低いので、回答率向上対策が必要である。
- ・ 学生が教員に相談しやすい環境を整えるために、オフィスアワーをWeb上で確認できるようにした。寮に協力を依頼して、夏休みの最初に寮を利用しての補講・補習ができるようにした。定期試験の過去問題を収集し、1年分の定期試験問題が集まった後期中間試験から図書館で過去問題を公開した。
- ・ 学生が自発的に学習に取り組む時間を確保するために、次年度に向けて学修単位(対面15時間、自学自習30時間の45時間で1単位)の導入を検討した。各学科の開講単位数を180単位以内とし、学修単位を現行よりも20～30単位増やすこととした。これにより、現在の学修単位と合わせて、30～40単位程度の学修単位が次年度から導入される。来年度からドイツ語の専任教員がいなくなることから、ドイツ語演習を廃講とし、ドイツ語を選択科目とすることとした。
- ・ 教務規則関係では、3年修了退学単位数の74単位への引き下げ、再評価申請用紙を担当教員から教務係に提出してもらうための規則改正を行った。必履修科目の定義の明確化、外部単位の追加、標語「秀」(S)の追加などの規則改正を行った。

- ・ 沼津高専の特徴ある教育として、INPIT「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」(導入・定着型)の支援を得て、知財教育を推進した。本科1～5年、専攻科の授業で知財教育が実施できるようにした。パテントコンテストに参加した学生が2年連続で優秀賞を受賞した。
- ・ 1～3年次に各種の行事が特に多いのに加えて、突発的に特別活動の時間に実施されることが多く、担任が特別活動を実施できないとの意見があり、これに応えるために、特別活動と学校行事を見えるように整理し、できるだけ計画的に各種の行事が実施できるようにした。
- ・ 令和2年度から実施される「高等教育の負担軽減」のために、実務経験のある教員の調査を実施した。
- ・ 次年度の時間割・行事予定表の作成を行った。
- ・ 不合格科目をもって進級した学生が再評価により不合格科目を解消できるように、再評価の進捗状況を把握した。年度当初の再評価対象277科目のうち、合格204科目であり、合格率は73.6%であった。
- ・ 学際教育が平成24年度に導入されて7年が経過した。導入当初は学際科目担当の臨時定員や特別予算があったが、すでに特別措置はなくなり、学際教育が各学科の運営上大きな負担となっている。学際教育の見直しを進める必要があることを総務委員会に報告した。
- ・ 次年度の4年生の海外研修旅行実施のためのWGに教務主事補が参加した。
- ・ 進級認定に関しては、進級基準を尊重しつつ、最終的には上級学年での修学に対応できると判断した学生については校長判断による特別進級を認めた。今後、弾力的運用の範囲を明文化することが必要である。退学者、留年者は減少傾向にあり、学習支援も行いながら、基礎的な学力を保証しながらさらに留年、退学者を減らす努力が必要である。



B.教務

区分項目	B100	3つの方針（準学士課程）
No.		B100-003
基準項目・関連番号等		基準5 準学士課程の教育課程・教育方法（5-3-①）
具体的取組事項		<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準、進級認定基準について、CPとの整合性を確認し、必要に応じて見直す。 ・成績評価基準、進級認定基準について、学生への周知方法及び授業アンケート（毎年全学生に実施）による認知状況を確認し、必要に応じて見直す。 ・成績評価等の客観性、厳格性を担保するため、定期試験終了後の答案返却、採点基準の提示、過去問題の提供や開示、成績分布のガイドラインの設定等の実施状況を確認し、必要に応じて見直す。
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準はシラバスのルーブリックに示した。進級認定に関しては、進級基準を尊重しつつ、最終的には上級学年での修学に対応できると判断した学生については校長判断による特別進級を認めた。今後、弾力的運用の範囲の明文化することが必要である。 ・Office 365を用いた授業アンケートを実施した。ポータルサイトに集計結果を掲載し、各教員はアンケート結果を授業改善に生かすようにした。 ・今年度は、定期試験終了後、1日で全ての科目の試験を返却することとした。アンケート回収率が全体的に低いので、今後対策を検討する。
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B100	3つの方針（準学士課程）
No.		B100-004
基準項目・関連番号等		基準5 準学士課程の教育課程・教育方法（5-3-②）
具体的取組事項		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業認定基準について、DPとの整合性を確認し、必要に応じて見直す。 ・卒業認定基準について、学生への周知方法及び学生アンケート（毎年全学生に実施）による認知状況を確認し、必要に応じて見直す。 ・卒業認定が教務委員会（卒業判定会議）の議に基づき適切に実施されているか、議事録や議事要旨を確認する。
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・卒業認定基準を総務委員会で検討し、外部諮問会議委員からの意見を基にして、妥当性を確認した。 ・昨年度実施した学生アンケート結果を分析した。卒業認定基準の認知度が低いので、高専だより、始業式、終業式などの機会を使用して、周知に努めた。 ・卒業認定は教務委員会（卒業判定会議）において、適切に実施されていることを、議事録を基に確認した。
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B100	3つの方針（準学士課程）
No.		B100-006
基準項目・関連番号等		基準7 準学士課程の学習・教育の成果（7-1-②）
具体的取組事項		<ul style="list-style-type: none"> ・DPに関し、卒業生、進学先大学、就職先企業を対象とするアンケートを実施する。
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> ・DPに関し、卒業生、進学先大学、就職先企業を対象とするアンケート結果を分析した。今後、アンケートの定期的な実施・運用方法を検討する。
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B200	授業関係・成績評価
No.	B200-525	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-①1-1	
具体的取組事項	①モデルコアカリキュラムに対応した授業を実施する。	
実施内容	①平成30年度入学生から、モデルコアカリキュラムに100%対応することとした。それ以前の入学生についても、カリキュラム変更進行中の学科を除いて、100%対応とした。MCC対応チェックのための授業実施報告書の様式を定めた。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B200	授業関係・成績評価
No.	B200-529	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-②	
具体的取組事項	①学習教育目標（実践指針）の「シラバス」への記載、「ルーブリック」による科目ごとの達成の確認、「達成度レーダチャート」による実践指針毎の自己点検を継続し、学生が意欲的に学習教育目標の達成に向けて取り組めるようPDCAを実行する。	
実施内容	①学習教育目標（実践指針）をシラバスに記載し、ルーブリックによる科目ごとの学習内容の達成の確認を行えるようにした。 専攻科において、全ての科目でルーブリックによる到達度の確認と成績評価との関連の確認、および達成度レーダチャートによる自己点検を実施した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B200	授業関係・成績評価
No.	B200-536	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑥-4	
具体的取組事項	③4年生に導入した地域指向科目である学際科目「社会と工学」で、地域自治体、商工会議所、企業、金融機関との共同教育を続ける。	
実施内容	③社会と工学において、地域を意識した授業を実施した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B200	授業関係・成績評価
No.	B200-538	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑦-1	
具体的取組事項	①4年生の学際科目「社会と工学」で地元の技術者や行政関係者等を講師とした共同教育を続けるとともに、授業の見直しと改善を行う。	
実施内容	①社会と工学において、本年度と次年度の担当で引継ぎを行い、授業の改善点を検討した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B200	授業関係・成績評価
No.	B200-563	
基準項目・関連番号等	年度計画「国際交流等に関する事項」Ⅰ-3-②-2	
具体的取組事項	③グローバル技術者の養成を目的とした取組（ネイティブの非常勤講師による集中講義など）を推進する。	
実施内容	ネイティブの英語の非常勤講師を委嘱して、"How to become a global engineer"の短期集中講座を開講した。 ・異文化理解に関する授業（選択外国語：国際理解）を新たに開講した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-506	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-①1-1	
具体的取組事項	①引き続き、ルーブリック・ポートフォリオによる学習教育目標の評価・点検を行う。	
実施内容	学習教育目標の各項目のレベルをシラバスのルーブリックに明示することにより、評価基準を明確にしている。シラバス作成時に各教員が点検している。ポートフォリオはKOREDAの導入に合わせて実施できるよう、KOREDAの導入状況について情報収集した。 専攻科において、ルーブリック・ポートフォリオによる学習教育目標の評価・点検を実施した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-508	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-①1-3	
具体的取組事項	また、長期インターンシップを推進すると共に、インキュベートルームを活用したCOOP教育を実施し、実務に通じた実践的教育を進める。	
実施内容	高専4.0イニシアティブの採択事業【沼津高専発人財育成と地域貢献を実現する技術インキュベーション】により整備した未来創造ラボラトリー（学内インキュベートルーム）を活用したCOOP教育の実現にあたって、その教育に値する条件を修了要件としてまとめた。そのCOOP教育への参加状況は、長期インターンシップには専攻科生4名、短期インターンシップには本科生1名であった。いずれも修了要件を満たすことができ、全員が実践的教育を全うすることができた。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-510	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-②	
具体的取組事項	①1,2年生にTOEIC Bridge テスト、3,4年生にはTOEIC IP テストを受験させ、授業内容・方法の改善を図る。入学者の英語力の変化を観察する。 ②全国高専学習到達度試験(CBT)に参加し、その結果を科目担当教員で共有し、今後の教育改善を図る。	
実施内容	① 1,2年生にTOEIC Bridge テスト、3,4年生にはTOEIC IP テストを受験させ、結果を英語科主任から教員に連絡して成績を共有した。 ② CBTについて、4年数学、3年数学・物理、2年化学、1年数学を受験し、各教科で結果に基づいて学力を評価した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-511	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-③	
具体的取組事項	①卒業生を含む学生による授業評価の結果を教員にフィードバックし、教育の質の向上につなげる取組を実施する。	
実施内容	① 授業アンケートの結果をポータルサイトへの掲載により、教員にフィードバックし、各教員が参考にして授業改善を行うこととした。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-526	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-①1-2	
具体的取組事項	②教材共有システムの活用、教員FD等を通じてアクティブラーニング手法を共有し、アクティブラーニング導入を進める。	
実施内容	阿南高専の坪井先生を招いて「なぜアクティブラーニング？どうやってアクティブラーニング？—失敗例をふまえて—」と題して12月19日に教員FDを開催した。このFDを通じて教員間でのアクティブラーニングとは何か、その応用例や効果と手法について共有を図ることができた。学内でのアクティブラーニング導入については、環境の問題およびALの認識不足でなかなか進んでおらず、数名の教員が試行錯誤を試みている状況である。これを踏まえて、24名が同時にアクティブラーニングを受けられるAL教室である「多目的教室」を設置し、環境の整備を行った。	
自己評価 (特記事項)	A	FDで情報の共有をしているが、学内での実践例が少ない状況である。「多目的教室」の活用を通じて学内でのAL実践例を増やしていく必要がある。

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-532	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-④	
具体的取組事項	①本校教員による「授業の工夫実践例」を継続的に調査収集し、本校のポータルサイト上に公開することにより全教員で情報共有し、互いの授業改善に有効活用する。機構本部が集めた教育改善事例を活用するよう教員への周知を図る。	
実施内容	①教員による「授業の工夫実践例」を集め、4件をポータルサイトに掲載し、情報共有した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-541	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑨	
具体的取組事項	・授業改善センターの下のE-learning推進委員会及びActive learning推進委員会を中心に授業改善を進めると共に、学内オンラインサービスであるeLearningシステムやOffice365などの活用を促進する。	
実施内容	教育ITソリューション展に参加し、E-learningおよびActive Learningの環境（机や椅子、プロジェクタ、電子黒板、ソフトウェア）と機能や価格を調査した。またE-learning推進委員会とActive Learning推進委員会と合同で、Office365を活用しe-learningやActive Learningへの活用の可能性について、FDを12月16日に開催した。具体的には先進的な取り組みをしている嶋准教授を講師に「サインインとFormsから始めるOffice365の活用」を開催し、Office365の活用の促進を図った。	
自己評価 (特記事項)	A	FDを開催しているが、具体的な授業改善になかなか繋がっていないのが現状である。学内の具体例を増やすためにも引き続きFD等を開催していく必要がある。

区分項目	B300	教育改善の取り組み
No.	B300-556	
基準項目・関連番号等	年度計画「研究や社会連携に関する事項」Ⅰ-2-③	
具体的取組事項	①「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」に参加し、学生への知財教育を推進する。	
実施内容	「知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業」（導入・定着型）に参加し、授業の中で知財教育に取り組むとともに、課題研究の一部のテーマの取組みで全国パテントコンテストに応募し、優秀賞を受賞した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	B400	特別課程
No.	B400-509	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-①2	
具体的取組事項	①静岡県の認定講習の認可を受けた「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム(F-met)」を沼津高専特別課程として実施し、10期生の社会人受講生を医用機器開発中核人材に育成することにより静岡県のファルマバレープロジェクトに人材育成面で協力する。	
実施内容	第10期の本特別課程は文部科学大臣から職業実践力育成プログラムとして認定されている。特別課程運営室会議と特別課程運営委員会を開催し、プログラムの運営の進捗、受講生の受講状況および次期の企画・立案、申請及び募集を行った。第10期受講生8名が本特別課程のプログラムを修了し、該当者について医療機器総括製造販売責任者及び責任技術者としての資格要件が認められた。特別課程運営室長が、富士山麓産業支援ネットワーク会議とふじのくに先端医療総合特区地域協議会に出席し、ファルマーバレー、静岡県新産業集積課および県東部市町の取り組み等の情報交換を行い、本特別課程の共同教育とその支援協力をより強固なものとした。平成30年度全国高専フォーラムOS「高専における医工連携」を企画実施し、本特別課程を紹介するとともに全国の高専と大学の取り組みを情報発信した。	
自己評価 (特記事項)	A	

C.学生

C100 学生の諸活動

- ・ 東海地区国立高専体育大会（6月～10月）へ14クラブ学生334名を派遣するとともに、地区主管校として運営に協力した。
- ・ ロボコン東海北陸大会（10月14日）へ出場し、特別賞（東京エレクトロン）を受賞した。全国高専プロコン（10月27日、28日）へ出場した。デザコンへは学内参加希望者がおらず、不参加だった。英語プレコン東海北陸大会（11月10日）へ出場した学生2名が1位2位となり、全国大会へ出場した。
- ・ 「学生による3次元デジタル設計造形コンテスト（CADコン）」と、「社会実装コンテスト」は学内参加希望者がおらず、不参加だったが、関連情報は随時学内に展開した。
- ・ 11月28日富士山麓アカデミック&サイエンスフェア2018（静岡県東部地域の近隣大学間共同研究発表会）を開催した。
- ・ 1～4年生全クラスで「クリーン活動」を5月～1月の期間に実施した。
- ・ 高校生しゃべり場inぬまづ（8/19）に参加した。高専祭で東北復興支援販売・赤い羽根募金（11/10、11/11）を行った。学校へ届くボランティア情報を学生会へ提供した。
- ・ 1年生のオリエンテーション（4/20、4/21）、2年生の特別研修（9/27）を行い、それぞれ209名、203名の学生が参加した。



C200 学生の健康・安全

- ・ 5月に新入生保護者対象のカウンセラーによる講演会を実施した
- ・ 学校適応感尺度調査及び学生生活アンケートを実施し、リスクがあると思われる学生の把握につとめ、状況によりカウンセラー、精神科医への相談に結びつけることができた。
- ・ 1年生を対象に、7月に性教育に関する講演会を実施した。12月には薬物乱用に関する講演会を実施した。
- ・ 2年生を対象に12月にDVに関する講演会を実施し、1月には交通講話を実施した。
- ・ 「学校保健計画」及び「学校安全計画」を実施した。また、新年度計画を策定した。



C300 就学支援

- ・ 「Future しずおか」を10月29日（1年生）および10月17日（2年生）に実施し、企業組織等への理解を深めた。
- ・ 3年生対象に「インターンシップ説明会（11月14日）」「インターンシップマッチング会（12月5日、1月23日）」を実施した。
- ・ 4年生対象に「インターンシップ事前研修（7月18日）」「インターンシップ報告会（9月）」を実施した。さらに「COC+シンポジウム」へ参加（10月31日）し、「就職面接講座（2月6日）」「就活メーク講座（2月27日）」を実施した。また「企業合同説明会（3月1日、2日）」に参加した。
- ・ 就職祭については、4年生・専攻科1年生全員及び3年生希望書に対し、3月12日にプラサヴェルデで実施し、業界及び企業への理解を深めた。
- ・ 5年生対象に実施した「就職模擬面接（4月～5月）」では、企業経験者を模擬試験官として招き、企業から見た望ましい面接の臨み方についての実地指導を行った。また、「社会人準備講座（1月21日）」を実施した。
- ・ 本科、専攻科ともに100%の就職内定率となっている。
- ・ 各種奨学金に関する情報を集約し、ホームページに掲載し、学生・保護者へ最新の情報を提供している。
- ・ 「五月の太陽奨学基金」を活用し3名の学生に奨学金の交付を行った。同窓会の奨学金についても、2名の学生へ支援を要請し奨学金が交付された。



C.学生

区分項目	C100	学生の諸活動
No.	C100-512	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-④-1	
具体的取組事項	<p>①高専体育大会、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、英語プレゼンテーションコンテストなどに積極的に参加し、運営に協力する。</p> <p>②全国高専デザインコンペティションと同時開催することになった「学生による3次元デジタル設計造形コンテスト(CAD コ)」に参加する。平成25年度「大学間連携共同教育推進事業（KOSEN 発イノベティブ・ジャパン）」の継承事業である「社会実装コンテスト」に参加する。</p>	
実施内容	<p>①東海地区国立高専体育大会（6月～10月）へ14クラブ学生334名を派遣するとともに、地区主管校として運営に協力した。</p> <p>ロボコン東海北陸大会（10月14日）へ出場し、特別賞（東京エレクトロン）を受賞した。全国高専プロコン（10月27日、28日）へ出場。デザコンへは学内参加希望者がおらず、不参加。英語プレコン東海北陸大会（11月10日）へ出場した学生2名が1位2位となり、全国大会へ出場した。</p> <p>②学内参加希望者がおらず、不参加。関連情報を随時学内展開している。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C100	学生の諸活動
No.	C100-513	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-④-2	
具体的取組事項	<p>③静岡県東部地域の近隣大学間共同学生研究発表会等への研究発表を積極的に奨励する。また、専攻科1年後期の長期インターンシップを通じて地域企業や大学院との連携、共同研究を活発にし、専門分野を超えたイノベティブな創造的実践的技術者の育成を目指す。</p>	
実施内容	<p>③11月28日富士山麓アカデミック＆サイエンスフェア2018（静岡県東部地域の近隣大学間共同研究発表会）を開催。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C100	学生の諸活動
No.	C100-515	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-④-4	
具体的取組事項	<p>④高専プロコンの案内を行うと同時にアイデアソン、ハッカソン等を企画する。</p>	
実施内容	<p>10月26-27日に徳島県で開催されたプログラミングコンテスに向けて、学内での募集をおこない、実施要項に関する説明会をおこなった。また、学校代表チームの選考会を開催した。</p> <p>そのほか、岐阜高専、小山高専、福島高専で開催されたセキュリティ合宿の案内ならびに学生参加者を公募し、参加引率をおこなった。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C100	学生の諸活動
No.	C100-516	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-⑤	
具体的取組事項	<p>学生に様々な体験活動に参加させるため、以下の活動を実施する。</p> <p>①1～4年生全クラスで校内外の清掃を行う「クリーン活動」</p> <p>②学生会を中心とした校外でのボランティア活動</p> <p>③1年生のオリエンテーション研修、2年生の特別研修を通じた自然・文化体験活動</p>	
実施内容	<p>①1～4年生全クラスで「クリーン活動」を5月～1月の期間に実施した。</p> <p>②高校生しゃべり場inぬまづ（8/19）に参加した。高専祭で東北復興支援販売・赤い羽根募金（11/10、11/11）を行った。学校へ届くボランティア情報を学生会へ提供した。</p> <p>③1年生のオリエンテーション（4/20、4/21）、2年生の特別研修（9/27）を行い、それぞれ209名、203名の学生が参加した。</p>	
自己評価 （特記事項）	A	

区分項目	C200	学生の健康・安全
No.	C200-542	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（学生支援・生活支援等）」Ⅰ-1-(5)-①1-1	
具体的取組事項	<p>①5月に新入生保護者対象のカウンセラーによる講演会を実施する。また、「こころと体の健康調査」を実施し、希死念慮等のリスクを把握し、適切な対応を取ることで自殺防止を図る。</p> <p>さらに4年生を対象にメンタルヘルスの講演会を実施する。1・2年生には性教育、薬物乱用等に関する特別講演を行うとともに「学生生活アンケート」を実施し、学生を取り巻く諸問題の兆候の早期把握に務める。</p>	
実施内容	<p>①4月27日に新入生保護者対象のカウンセラーによる講演会を実施した。また、「こころと体の健康調査」の代わりとなる「学校適応感尺度調査」を6月に実施し、希死念慮等のリスクを把握し、カウンセリングや外部医療機関につなげるなど適切な対応を取った。</p> <p>さらに5年生を対象にメンタルヘルスの講演会を2月7日に実施した。1・2年生には7月2日に性教育、12月10日に薬物乱用等に関する特別講演を行うとともに、全学年を対象に「学生生活アンケート」を10月に実施し、学生を取り巻く諸問題の兆候の早期把握に務めた。</p>	
自己評価 （特記事項）	A	

区分項目	C200	学生の健康・安全
No.	C200-543	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（学生支援・生活支援等）」Ⅰ-1-(5)-①1-2	
具体的取組事項	<p>①5月に新入生保護者対象のカウンセラーによる講演会を実施する。また、「こころと体の健康調査」を実施し、希死念慮等のリスクを把握し、適切な対応を取ることで自殺防止を図る。</p> <p>さらに4年生を対象にメンタルヘルスの講演会を実施する。1・2年生には性教育、薬物乱用等に関する特別講演を行うとともに「学生生活アンケート」を実施し、学生を取り巻く諸問題の兆候の早期把握に務める。</p>	
実施内容	<p>①4月27日に新入生保護者対象のカウンセラーによる講演会を実施した。また、「こころと体の健康調査」の代わりとなる「学校適応感尺度調査」を6月に実施し、希死念慮等のリスクを把握し、カウンセリングや外部医療機関につなげるなど適切な対応を取った。</p> <p>さらに5年生を対象にメンタルヘルスの講演会を2月7日に実施した。1・2年生には7月2日に性教育、12月10日に薬物乱用等に関する特別講演を行うとともに、全学年を対象に「学生生活アンケート」を10月に実施し、学生を取り巻く諸問題の兆候の早期把握に務めた。</p>	
自己評価 （特記事項）	A	

区分項目	C200	学生の健康・安全
No.	C200-901	
基準項目・関連番号等		
具体的取組事項	毎年度「学校保健計画」及び「学校安全計画」を策定し実施する。	
実施内容	「学校保健計画」及び「学校安全計画」を実施した。また、新年度計画を策定した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C300	就学支援
No.	C300-534	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑥-1	
具体的取組事項	<p>地域産業界との連携による共同教育として、以下の活動を実施する。</p> <p>①1・2年生対象のキャリア教育として地元企業から講師を派遣して頂く「Futureしずおか」や、地元企業等を招いて行う「就職祭」等を通して、地域企業との「共同教育」を推進する。</p> <p>②本科4・5年生のインターンシップを継続するとともに地域の優良企業を中心に専攻科1年生の長期学外実習を実施し、共同教育を推進する。</p>	
実施内容	<p>①「Futureしずおか」を10月29日（1年生）および10月17日（2年生）に実施し、企業組織等への理解を深めた。</p> <p>・就職祭については、4年生・専攻科1年生全員及び3年生希望書に対し、3月12日にプラサヴェルデで実施し、業界及び企業への理解を深めた。</p> <p>②本科4・5年生のインターンシップを実施し、4年生140名(78%)、5年生1名の参加者があった。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C300	就学支援
No.	C300-537	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑥-5	
具体的取組事項	④COC+において、インターンシップ受入れ先の開拓を行う。	
実施内容	④12月5日、1月23日の両日、本科3年生に対し、次年度夏季のインターンシップ先を選定するための一助として、本校体育館でインターンシップマッチング会を開催し、静岡県内企業、延約70社が事業内容及びインターンシップ内容の説明を行った。また、10月31日に一般約120名、本校4年の学生約200名の計320余名が参加したCOC+シンポジウムを開催し、「若手人材を地域に定着させるにはどうすればよいのかを、基調講演や事例、パネルディスカッションにて話し合った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C300	就学支援
No.	C300-539	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑦-2	
具体的取組事項	<p>②企業技術者や外部の専門家を活用した教育として、以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Futureしずおか」、「就職祭」、「模擬面接」等を通して、企業人材を学生のキャリア教育に活用する。 	
実施内容	<p>②「Futureしずおか」を10月29日（1年生）および10月17日（2年生）に実施した。3月12日開催の「就職祭」では、56社の企業から、就活アドバイス等を実施した。「模擬面接」（4月～5月）においては、企業経験者を模擬試験官として招き、企業から見た望ましい面接の臨み方についての実地指導を行った。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C300	就学支援
No.	C300-546	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（学生支援・生活支援等）」Ⅰ-1-(5)-③-1	
具体的取組事項	<p>①各種奨学金に関する情報を集約し、学内限定ホームページにより、学生に対して最新の情報を提供する。</p> <p>②50周年記念事業の一環として創設された国際交流基金の活用を図る。</p> <p>③昨年度新設した本校奨学金制度である「五月の太陽奨学金」を活用するとともに、同窓会と連携して同窓会奨学金制度の利用を推進する。</p>	
実施内容	<p>①各種奨学金に関する情報を集約し、ホームページに掲載し、学生・保護者へ最新の情報を提供している。</p> <p>③「五月の太陽奨学金」を活用し3名の学生に奨学金の交付を行った。同窓会の奨学金についても、2名の学生へ支援を要請し奨学金が交付された。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	C300	就学支援
No.	C300-548	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（学生支援・生活支援等）」Ⅰ-1-(5)-④	
具体的取組事項	<p>①「キャリア支援センター」を中心に低学年からの一貫したキャリア教育を実施する。</p> <p>②静岡新聞社主催の、本校学生対象の「就職祭」に参加する。</p> <p>③各学科の就職担当教員・インターンシップ担当教員を中心に、企業情報・就職情報等の提供を充実させ、高い就職率を維持する。</p>	
実施内容	<p>①1年生対象に「Futureしずおか（10月29日）」、2年生対象に「Futureしずおか（10月17日）」、3年生対象に「インターンシップ説明会（11月14日）」「インターンシップマッチング会（12月5日、1月23日）」、4年生対象に「インターンシップ事前研修（7月18日）」「インターンシップ報告会（9月）」「COC+シンポジウムへ参加（10月31日）」、「就職面接講座（2月6日）」「就活メーカー講座（2月27日）」、「企業合同説明会（3月1日、2日）」「就職祭（3月12日）」、5年生対象に「就職模擬面接（4月～5月）」、「社会人準備講座（1月21日）」を実施した。</p> <p>②就職祭については、4年生・専攻科1年生全員及び3年生希望書に対し、3月12日にプラサヴェルデで実施し、業界及び企業への理解を深めた。</p> <p>③本科、専攻科ともに100%の就職内定率となっている。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

D.寮務

- ・ 寮運営に関する事項について寮務担当者会議を23回、再入寮に関する事項を審議するために寮務運営委員会を2回開催した。
- ・ 年間で8回の朝礼を実施した。
- ・ 平成30年4月1日(日)に寮生役員研修会を実施した。
- ・ 平成30年4月3日(火)に入寮式を実施した。
- ・ 平成30年4月4日(水)に開寮式を実施した。
- ・ 平成30年5月20日(日)に第57回寮祭を開催し、一般公開で模擬店やステージ企画などを実施した。
- ・ 平成30年7月7日(土)に夏祭りを実施した。
- ・ 平成30年9月7日(金)、8日(土)に寮生リーダー研修会を実施した。
- ・ 平成30年9月15日(土)に沖縄高専から寮生会役員4名、引率教員1名の訪問があった。
- ・ 平成30年10月25日(木)に1年生対象、26日(金)に2年生以上対象の再入寮説明会を実施した。
- ・ 平成31年2月2日(土)に、寮生会役員8名、引率教員1名で豊田高専を訪問した。
- ・ 平成31年2月24日(日)、25日(月)に次年度の寮生リーダー研修会を実施した。消防署員による防災訓練や救急救命講習等を行った。また、スクールカウンセラーによるコミュニケーションスキル向上のための講習も行った。

D.寮務

区分項目	D100	学寮生活指導
No.	D100-544	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（学生支援・生活支援等）」Ⅰ-1-(5)-①2-3	
具体的取組事項	②寮では指導寮生を対象に、リーダーとしての資質を高める研修を設ける。また低学年に対する教養講座も継続して実施する。	
実施内容	指導寮生を対象に、春季休業期間中および夏季休業期間中に平成30年度のリーダー研修会を実施した。 また、春季休業期間中に平成31年度のリーダー研修会を実施した。 本校教員による、低学年向けの教養講座を実施した。	
自己評価 (特記事項)	A	

E.専攻科

- ・ 1年生後期に実施している長期インターンシップ（学外実習）において、韓国のクモ工科大学とウソク大学の国外実習先で取り組んだ学生数が、昨年度の2倍の4名となった。また、昨年度から始まった高専4.0イニシアチブ事業で本校地域創生テクノセンター内「未来創造ラボラトリー」入居企業にて、4名の学生が「学内」学外実習に取り組んだ。より多様な環境で学生が実習に取り組むことは、各自の実習先での学びに加えて、学外実習報告会をはじめとした機会に同級生が得た多様な学びを知ることとなり、一層効果的な実習になることが期待される。
- ・ 1年生の実践工学演習の一貫として参加している本校主催の「静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専」において、2年生を中心とした専攻科生の研究発表を組み入れ、地域企業の技術者という異なる分野のプロに研究紹介をするという経験を踏むことで、自身の研究を違った面から見直す貴重な機会となった。これらは本校地域創生テクノセンターとの協同により得ることができた成果である。
- ・ 高専4.0イニシアチブ事業でもある本校の国際化の推進として、専攻科2年生が、2年間の専攻科研究の集大成を披露する専攻科研究発表会を交流協定校の韓国クモ工科大学との合同研究発表シンポジウム「Japan-Korea Technical Symposium in Numazu 2019」として行う試みにも初めて挑戦した。これは、本校とクモ工科大学で留学生の相互派遣という形で行ってきた交流に研究活動での交流を加えた初めての機会であるとともに、ほとんどの専攻科生にとって、初めての英語による口頭での研究発表への挑戦となった。準備から発表、質疑応答まで大変な頑張りを必要としたが、学生はしっかりやり遂げ、シンポジウム後の交流会でもクモ工科大学の学生らと親交を深めることができ有意義な試みとなった。これは本校国際交流センターとの協同により得ることができた成果である。



E.専攻科

区分項目	E100	3つの方針（専攻科課程）
No.	E100-007	
基準項目・関連番号等	基準8 専攻科課程の教育活動の状況（8-2-②）	
具体的取組事項	・毎年度、専攻科新入生に対する入学動機に関するアンケートを実施し、専攻科APの理解度を確認する。また、確認結果は、次年度専攻科入学者選抜の改善検討資料とする。	
実施内容	・専攻科APに関し、専攻科1年生へ入学動機に関するアンケートを実施した。また、集計結果は、専攻科入試実行委員会において、専攻科入学者選抜の改善検討資料として活用した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	E100	3つの方針（専攻科課程）
No.	E100-008	
基準項目・関連番号等	基準8 専攻科課程の教育活動の状況（8-3-②）	
具体的取組事項	・専攻科DPに関し、修了生、進学先大学、就職先企業を対象とするアンケートを実施する。	
実施内容	・専攻科DPに関し、修了時の学生（平成30年度修了生）、修了生（平成26年度修了生）及び進路先関係者を対象とするアンケートを実施した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	E200	専攻科授業・成績評価
No.	E200-527	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」I-1-(4)-①1-3	
具体的取組事項	③ICT活用教育環境の整備を進め、専攻科授業やプログラム科目においてルーブリック評価を推進する。	
実施内容	すべての専攻科授業においてルーブリック評価を成績評価の根拠として学生に提示した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	E200	専攻科授業・成績評価
No.	E200-531	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-③-2	
具体的取組事項	②コース科目に「エンジニアリングデザイン」を取り入れた科目を推進する。	
実施内容	②医療福祉機器開発工学コース科目「医療機器工学」、「生体材料工学」、環境エネルギー工学コース科目「エネルギー工学」、新機能材料工学コース科目「分子材料設計」、「複合材料」にエンジニアリングデザイン教育を取り入れた。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	E300	長期インターンシップ
No.	E300-507	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-①1-2	
具体的取組事項	また、長期インターンシップを推進すると共に、インキュベートルームを活用したCOOP教育を実施し、実務に通じた実践的教育を進める。	
実施内容	専攻科1年生26名が長期インターンシップに10月初めから翌年1月下旬まで取り組んだ。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	E300	長期インターンシップ
No.	E300-514	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育課程の編成等）」Ⅰ-1-(2)-④-3	
具体的取組事項	③静岡県東部地域の近隣大学間共同学生研究発表会等への研究発表を積極的に奨励する。また、専攻科1年後期の長期インターンシップを通じて地域企業や大学院との連携、共同研究を活発にし、専門分野を超えたイノベティブな創造的実践的技術者の育成を目指す。	
実施内容	長期インターンシップに関して、平成30年度は企業に21人、大学等に6人、韓国コモ工科大学に3人、韓国ウソク大学に1人、団体研究所に1人を派遣（計26人、2ヶ所以上実習学生あり）し、創造的実践的技術者の育成に寄与した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	E300	長期インターンシップ
No.	E300-530	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-③-1	
具体的取組事項	①専攻科の長期インターンシップを推進する。	
実施内容	専攻科1年生26名について約4ヶ月間の学外実習を必修として実施している。企業団体に22名、大学に10名が受け入れられ（2ヶ所以上実習学生あり）、実習に取り組んだ。このうち、4名は協定締結校を含む韓国2大学での実習である。	
自己評価 (特記事項)	A	

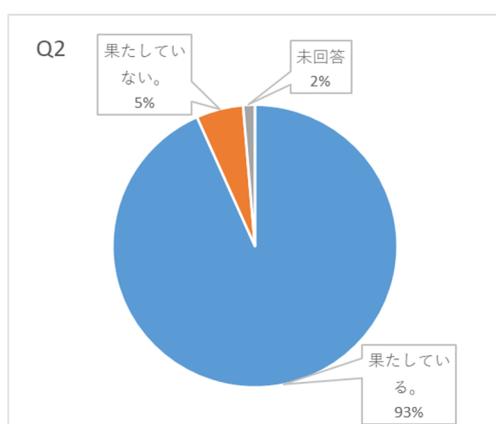
区分項目	E300	長期インターンシップ
No.	E300-535	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑥-3	
具体的取組事項	②本科4・5年生のインターンシップを継続するとともに地域の優良企業を中心に専攻科1年生の長期学外実習を実施し、共同教育を推進する。	
実施内容	専攻科1年の長期インターンシップを実施し、企業で実習した専攻科生21名中19名が静岡県内の企業で実習を行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

F.研究・社会連携

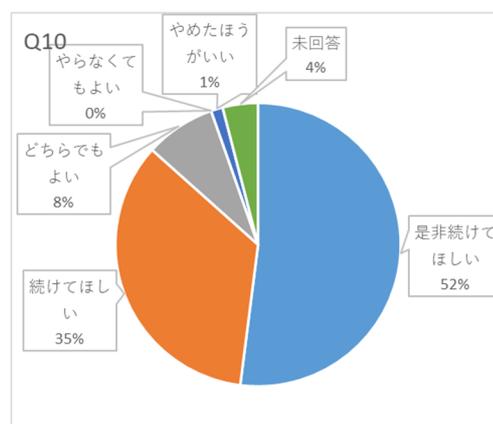
- ・ 平成 30 年 5 月 11 日に未来創造ラボラトリー入居企業との連絡会を開催した。連絡会では、校長からの挨拶の後、本校及び入居企業が協同行なう教育活動に関して意見交換した。また、教育活動の意見交換のほか、入居企業の本校ラボを活用した活動状況・活動予定の報告や本校への提案を頂き、今後、本校及び未来創造ラボラトリー入居企業が協働して事業を実施するうえで、大変有意義なものとなった。
- ・ 平成 30 年 7 月 11 日に本校で地域創生交流会フォーラムを開催した。本校の 3 名の教員による研究事例紹介の後、学内の研究施設の見学を企画し、最後に名刺交換や情報交換を目的とした交流会を行った。
- ・ 例年の科学研究費補助金の説明会では、申請を予定している教員だけが参加するため、3分の 1 程度の参加者数になる。なるべく多くの教員に周知する目的で、平成 30 年 9 月 12 日の第 3 回教員会議で科研費申請に関する資料を教員全員に配布し、変更点や重要な事項を伝える 5 分程度の説明に変更した。さらに過去 5 年間に全く申請を行っていない教員について、総務委員会で学科長を通して申請を促すようお願いした。
- ・ 平成 30 年 11 月 28 日にふじさんめっせで開催した富士山麓アカデミック&サイエンスフェア 2018 に本校から計 12 件の研究発表があり、5 件の発表が優秀賞に選ばれた。



- 平成 30 年 12 月 6 日に第 2 体育館において、第 13 回静岡県東部テクノフォーラム in 沼津高専を開催した。第 1 部 基調講演では、「地域との連携を活かした産学協働教育の可能性～地域創生に資するコーオプ教育の在り方について～」という題目で富士市産業支援センターf-Biz センター長の小出宗昭氏が講演した。テクノフォーラム三か所を対象としたアンケートは、小出氏の基調講演、卒業生による企業展示、地域企業の出展等、いずれも大変好評であったことがわかった。



Q2. 今回の企画は、「地域産業が元気になる、学生が地域産業を知り学ぶ、挑戦と交流の場」(キャッチコピー) という役割を果たしていると感じますか？



Q10. 今後もこのような企業展示を続けた方がよいですか？

- 平成 29 年度の技術相談の件数は 25 件と昨年とほぼ同数であった。
- 共同研究は、件数で 35 件、受入額で 3200 万円を超えと極めて高い数字を維持した。外部資金の獲得は、共同研究で 23,000 千円、受託研究で 16,000 千円、助成金・寄付金で 2,200 千円と極めて多くの外部資金を獲得できた。
- 平成 30 年度は、合計 16 件の公開講座を専門 5 学科及び教養科の教員が開催した。公開講座受講者を対象にしたアンケートを集計した結果、充足率は約 70%、満足度は、99%と極めて好評であった。また、本年度より公開講座実施後、その様子を本校 HP のトピックスに掲載している。



F.研究・社会連携

区分項目	F100	研究
No.	F100-554	
基準項目・関連番号等	年度計画「研究や社会連携に関する事項」Ⅰ-2-①	
具体的取組事項	<p>①科学研究補助金の採択件数増にむけた説明会等を企画し実行する。</p> <p>②県東部地域の大学等と共同開催している「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」の開催に参画するとともに研究発表および本校の活動紹介による地域社会への発信を行う。</p>	
実施内容	<p>①例年の科学研究費補助金の説明会では、申請を予定している教員だけが参加するため、3分の1程度の参加者数になる。なるべく多くの教員に周知する目的で、第3回教員会議(9月12日)のときに科研費申請に関する資料を教員全員に配布し、変更点や重要な事項を伝える5分程度の説明に変更した。さらに過去5年間に全く申請を行っていない教員について、総務委員会で学科長を通して申請を促すようお願いした。</p> <p>②地域創生テクノ副センター長(地域連携部門長)の山崎先生が富士山麓アカデミック&サイエンスフェア実行委員会に本校の代表として出席し、学内への募集や準備を行った。本校から計12件の研究発表があり、5件の発表が優秀賞に選ばれた。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	F100	研究
No.	F100-580	
基準項目・関連番号等	年度計画「予算」Ⅲ-②	
具体的取組事項	科研費を含む外部資金獲得に努める。	
実施内容	<p>例年の科学研究費補助金の説明会では、申請を予定している教員だけが参加するため、3分の1程度の参加者数になる。なるべく多くの教員に周知する目的で、第3回教員会議(9月12日)のときに科研費申請に関する資料を教員全員に配布し、変更点や重要な事項を伝える5分程度の説明に変更した。さらに過去5年間に全く申請を行っていない教員について、総務委員会で学科長を通して申請を促すようお願いした。また、外部資金の獲得は、共同研究で23,000千円、受託研究で16,000千円、助成金・寄付金で2,200千円と極めて多くの外部資金を獲得できた。</p>	
自己評価 (特記事項)	S	外部資金獲得のうち、共同研究の総額は、23,000千円と昨年に引き続き、多額の共同研究費を獲得できた。

区分項目	F200	社会連携
No.	F200-555	
基準項目・関連番号等	年度計画「研究や社会連携に関する事項」Ⅰ-2-②	
具体的取組事項	<p>①学外からの技術相談に積極的に応じるにより、地域貢献を図る。</p> <p>②本校の保有するシーズをテクノセンターニュース、シーズ集等の広報誌及び静岡県東部地区のテクノフォーラムの開催等により発信し、新たな共同研究等の受入を促進する。</p> <p>③「沼津高専とともに歩む議員連盟」および「沼津高専地域創生交流会」との連携事業を行う。</p>	
実施内容	<p>①平成29年度の技術相談の件数は25件と昨年とほぼ同数であった。</p> <p>②沼津工業高等専門学校研究・技術シーズ集は隔年発行で2017年に2017-2018として発行しているため、シーズ集発行後に着任された7名の教員のシーズ集のみ追加で作成した。テクノフォーラムは、会場を例年の図書館下のロビー、視聴覚教室等から第2体育館に移し、基調講演、企業展示ブース等への人の流れを考慮した形に変更した。終了後にアンケートを行っているが、小出氏の基調講演、卒業生による企業展示、地域企業の出展等、いずれも大変好評であった。共同研究は、件数で35件、受入額で3200万円超えと極めて高い数字を維持した。</p> <p>③7月11日に本校で地域創生交流会フォーラムを開催した。本校の3名の教員による研究事例紹介の後、学内の研究施設の見学を企画し、最後に名刺交換や情報交換を目的とした交流会を行った。</p>	
自己評価 (特記事項)	S	・テクノフォーラムの会場を第2体育館に移した点や基調講演をお願いした小出氏の講演について、アンケートを行った結果、大変好評であった。

区分項目	F200	社会連携
No.	F200-557	
基準項目・関連番号等	年度計画「研究や社会連携に関する事項」1-2-④	
具体的取組事項	<p>①テクノセンターニュースを発行するとともに、研究・技術シーズ集を活用して、地域の産業交流会等での研究シーズの発信を図る。</p> <p>②県内外のイベントに参加すると共に、「静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」や「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」など、地域の産学官連携行事を開催すると同時に積極的に参加して共同研究等の成果を発信する。</p>	
実施内容	<p>①テクノセンターニュースの発行時期が地域創生交流会フォーラムや公開講座の実施前になるよう新年度早々に準備を始め、7月11日に第14号を発行した。地域創生交流会フォーラム参加者や地域創生交流会会員企業に配布するとともに、公開講座のアナウンスを目的として、関係各機関に配布した。また、平成30年2月にオープンした未来創造ラボラトリーの入居企業を紹介し、高専4.0に関連した新たな取り組みについて積極的にアピールした。</p> <p>②「静岡県機械金属協同組合連合会平成30年通常総会」、「富士山麓産学官金連携フォーラム2019」、「富士山麓アカデミック&サイエンスフェア」、「ものづくり力交流フェア」等のイベントに参加するとともに、「沼津高専地域創生交流会フォーラム」、「高専祭での卒業生による企業展示」、「第13回静岡県東部テクノフォーラムin沼津高専」を開催した。テクノフォーラムは、会場を例年の図書館下のロビー、視聴覚教室等から第2体育館に移し、基調講演、企業展示ブース等への人の流れを考慮した形に変更した。終了後にアンケートを行っているが、小出氏の基調講演、卒業生による企業展示、地域企業の出展等、いずれも大変好評であった。富士山麓アカデミック&サイエンスフェアでは、本校から計12件の研究発表があり、5件の発表が優秀賞に選ばれた。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	F200	社会連携
No.	F200-558	
基準項目・関連番号等	年度計画「研究や社会連携に関する事項」1-2-⑤	
具体的取組事項	<p>①社会人（小学4年生以上）対象の公開講座を専門5学科及び教養科が各1講座以上を開催し、社会人の学び直しへの協力を推進する。また、前年度のアンケートの結果を教職員に開示し、公開講座の内容の改善を図る。</p> <p>②地域貢献として出前授業を中学校・地方自治体からの依頼を受けて実施する。</p> <p>③入学志願者数確保の観点から、中学生も参加できるものも検討する。</p>	
実施内容	<p>①合計16件の公開講座を専門5学科及び教養科の教員が開催した。公開講座受講者を対象にしたアンケートを集計した結果、充足率は約70%、満足度は、99%と極めて好評であった。</p> <p>③今回中学生が参加できる公開講座は、16講座中8講座であった。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	F200	社会連携
No.	F200-559	
基準項目・関連番号等	年度計画「研究や社会連携に関する事項」1-2-⑤	
具体的取組事項	<p>①社会人（小学4年生以上）対象の公開講座を専門5学科及び教養科が各1講座以上を開催し、社会人の学び直しへの協力を推進する。また、前年度のアンケートの結果を教職員に開示し、公開講座の内容の改善を図る。</p> <p>②地域貢献として出前授業を中学校・地方自治体からの依頼を受けて実施する。</p> <p>③入学志願者数確保の観点から、中学生も参加できるものも検討する。</p>	
実施内容	<p>②12件の出前授業を企画・実施した。また、地域自治体から3件の出前授業の依頼を受けて実施した。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

G.国際交流

- ・ 国際交流を推進するために海外交流委員会を 3 回，長期留学生に対する支援のために留学生支援委員会を 2 回開催した。海外交流委員会では主に海外提携校との交流協定の締結，短期留学生の受け入れと派遣，交際交流基金の執行，日本人学生の海外体験や語学研修などに関する審議を行った。留学生支援委員会では主に長期留学生の受け入れ，チューター学生に対する研修，長期留学生の活動に対する支援，留学生経費の執行などに関する審議を行った。
- ・ 平成 29 年度に引き続き，”KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ採択事業「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」の一環として，次のことを実施した。

- ・ 5 月にウエスタンミシガン大学(アメリカ)と交流協定を締結し，3 月に「アメリカ異文化体験および語学研修プログラム」として日本人本科学学生 5 名を 3 週間派遣した。



ウエスタンミシガン大学との協定

- ・ 9 月にウソク大学（韓国）と交流協定を締結し，10 月に専攻科学生 1 名を海外インターンシップとして 3 ヶ月間派遣した。
- ・ 以前より交流協定を締結しているクモ工科大学（韓国）に 10 月に専攻科学生 3 名を海外インターンシップとして派遣し，同大学からは 8 月に 4 名，1 月に 3 名の計 7 名の学生を受け入れた。また 1 月には沼津高専とクモ工科大学のそれぞれの学生が英語で研究成果を発表する国際シンポジウム ”Japan/Korea Technical Symposium in Numazu 2019” を沼津市で開催し，研究活動における交流を行った。



Japan/Korea Technical Symposium in Numazu 2019

- ・ 上述のクモ工科大学からの 7 名の他，タマサート大学（タイ）から 1 名，キングモンクット工科大学（タイ）から 2 名の，計 10 名の短期留学生を受け入れた。
- ・ 長期留学生の生活・学習支援のためにチューター研修会を 2 回実施し，チューターとして必要な知識や心構えの定着を図るとともに，チューター学生に対するフォ

ローを行った。

- ・ 主に工学・自然科学の分野から 37 冊の英字教科書を選定し、図書館に配架した。
- ・ 12月に学生会が、自主的に留学生との交流行事を開催した。
- ・ 来年度から4年生全員を対象にした海外研修旅行（台湾：3泊4日）を実施できるように、準備を進めた。
- ・ 本取り組みを紹介するパンフレットを800部作成した
- ・ 11月に行われた運営諮問会議にて、学外有識者から本取り組みに対する評価を受けた。



学生会主催の交流行事

- ・ タイ、ベトナム、マレーシアからそれぞれ1名の計3名の長期留学生を3年次に新たに受け入れた（4年生以上を含めた長期留学生は7名）。

- ・ 長期留学生に対し、日本における歴史的な信仰と観光を研修テーマとした鎌倉方面への研修旅行を11月に実施した。また東海地区5高専による留学生交流会が12月に行われ、本校からは4名の留学生が参加した。



鎌倉方面への研修旅行

- ・ 高専生の英語キャンプ（全国版）に1名、テクニカルチャレンジプログラム2018@香港に2名、国際シンポジウム（ISTS2018）に1名の学生を派遣し、前述した海外インターシップ、アメリカ異文化体験および語学研修プログラムを含めて13名の学生を海外に派遣した。
- ・ ネイティブの非常勤講師による英語の専門授業 “How To Become a Global Engineer” の開講、多読を英語発話力に繋ぐための新規プログラムの開発、専攻科海外長期インターシップ、本科1・2年生を対象にしたTOEIC Bridge IP、本科3・4年生を対象にしたTOEIC L&R IPを実施し、学生の英語力向上に務めた。

G.国際交流

区分項目	G100	国際交流
No.	G100-547	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（学生支援・生活支援等）」Ⅰ-1-(5)-③-2	
具体的取組事項	<p>①各種奨学金に関する情報を集約し、学内限定ホームページにより、学生に対して最新の情報を提供する。</p> <p>②50周年記念事業の一環として創設された国際交流基金の活用を図る。</p> <p>③昨年度新設した本校奨学金制度である「五月の太陽奨学金」を活用するとともに、同窓会と連携して同窓会奨学金制度の利用を推進する。</p>	
実施内容	②海外派遣学生助成（助成件数6件、助成金額262,550円）並びに海外からの短期留学生の受入（交流会助成/28,836円）に国際交流基金を活用した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	G100	国際交流
No.	G100-560	
基準項目・関連番号等	年度計画「国際交流等に関する事項」Ⅰ-3-①1	
具体的取組事項	<p>①海外協定校（クモ工科大学）との学生交流を推進する。</p> <p>②海外新規校との交流協定締結に向けた取組を推進する。</p>	
実施内容	<p>①クモ工科大学との学生相互交流を継続（受入7名、派遣3名）している。（上記交流協定に基づき、平成31年1月に日韓工学シンポジウム in 沼津 2019を開催した。）</p> <p>②平成30年5月にウェスタンミシガン大学（アメリカ）と交流協定を締結した。（上記交流協定に基づき、平成31年3月にウェスタンミシガン大学へ3週間学生5名を派遣した。）</p> <p>・平成30年9月にウソク大学（大韓民国）と交流協定を締結した。（上記交流協定に基づき、平成30年10月からウソク大学へ3ヶ月間専攻科生1名を派遣した。）</p>	
自己評価 (特記事項)	S	<p>・クモ工科大学と新たに工学シンポジウム（学生間交流研究発表会）を開催した。</p> <p>・海外新規校2校と交流協定を締結するとともに学生派遣を開始した。</p>

区分項目	G100	国際交流
No.	G100-561	
基準項目・関連番号等	年度計画「国際交流等に関する事項」Ⅰ-3-①2	
具体的取組事項	①学生の国際交流・海外派遣を促進するための取組（学生間交流、海外インターンシップ、海外派遣助成など）を促進する。	
実施内容	<p>①短期留学生10名を受入れた。</p> <p>タマサート大学（タイ）1名、キングモンクット工科大学（タイ）2名、クモ工科大学（大韓民国）7名</p> <p>・学生13名を海外派遣した。</p> <p>高専生のための英語キャンプ（シンガポール）1名、テクニカルチャレンジプログラム（中国・香港）2名、I S T S 2018（タイ）1名、専攻科海外長期インターンシップ（大韓民国）4名、異文化体験&語学研修（アメリカ）5名</p> <p>・海外派遣学生助成（助成件数6件、助成金額262,550円）並びに海外からの短期留学生の受入（交流会助成/28,836円）に国際交流基金を活用した。</p> <p>・4年生全員を対象とした海外研修旅行（台湾：3泊4日）を来年度9月に実施出来るよう準備を進めている。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	G200	留学生支援
No.	G200-562	
基準項目・関連番号等	年度計画「国際交流等に関する事項」Ⅰ-3-②-1	
具体的取組事項	<p>①留学生の受入拡大に向けた取組（環境整備、支援体制整備、奨学金確保など）を推進する。</p> <p>②海外の教育機関との相互交流に向けた取組（短期留学生の受入、学生海外派遣など）を推進する。</p>	
実施内容	<p>①②高専4.0イニシアティブの採択事業【学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組】として海外新規校との協定締結、留学生への支援強化、居住環境整備などの取組を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私費留学生（ベトナム1名）に対してエンケイ財団法人奨学金（給付月額2万円）を確保した。 ・留学生3年生（3名）を対象とした日本語特別補講（週1回、年間33回）を実施した。 ・留学生3・4年生（6名）を対象にチューターを配置し、学業支援などを行った。また、チューターの留学生支援活動に役立つよう異文化理解などの知識をより深めさせるためのチューター研修会（年2回）を実施した。 ・短期留学生をタマサート大学（1名）、キングモンクット工科大学（2名）、クモ工科大学（7名）から受入れるとともに専攻科1年生をクモ工科大学（3名）、ウソク大学（1名）本科生をウェスタンミシガン大学（5名）に派遣した。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	G200	留学生支援
No.	G200-564	
基準項目・関連番号等	年度計画「国際交流等に関する事項」Ⅰ-3-③	
具体的取組事項	<p>①留学生に対し、日本の歴史・文化などに触れさせる取組（研修旅行、東海地区留学生交流会）を推進する。</p>	
実施内容	<p>①「日本における歴史的な信仰と観光」を研修テーマとした鎌倉方面への留学生研修旅行（11月3日）を実施した。（引率教職員2名、留学生7名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海地区5高専による留学生交流会（12月23日～24日）に参加した。（参加者：引率教職員4名、留学生4名） 	
自己評価 (特記事項)	A	

X.学校運営

- ・ 教育研究、管理運営、入学者選抜に関する重要事項を審議するため総務委員会を12回、学校全体における人事・予算及び将来構想等の重要案件を検討するため企画運営委員会を19回開催した。
- ・ 平成30年11月20日(火)に運営諮問会議を開催し、大学等高等教育機関の関係者、産業・経済界の関係者、本校が所在する地域の関係者、本校の支援団体等の関係者の幅広い有識者を招き、KOSEN4.0 イニシアティブ「沼津高専発 人財育成と地域貢献を実現する技術インキュベーション」、「学内留学を中心としたキャンパス国際化を推進する取組」及び「3つのポリシー」の3項目についての諮問が行った。
- ・ 平成30年度から実施される3巡目の「高等専門学校機関別認証評価」(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)について、平成30年6月27日(水)に自己点検・評価書を提出し、平成30年10月11日(木)～12日(金)に訪問調査が行われるなど、教職員のほか、学生、卒業生を交え学校全体で対応した。その結果、平成31年3月27日に「沼津工業高等専門学校は、高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学改革支援・学位授与機構が定める高等専門学校基準を満たしている。」との評価結果を得た。
- ・ 平成29年度末に立ち上げた教育システム点検委員会において、3つのポリシーを中心に教育システムの検証を行い、平成30年9月18日(火)に「平成29年度教育システム点検委員会答申書」を受け取り、検証結果について説明を受け、改善点等の意見交換を行った。
- ・ 平成31年度施設概算要求事業において、「基幹・環境設備(給排水設備更新)」及び「図書館改修」を要求した結果、平成32年度予算(当初)で「基幹・環境整備(給水設備)」が採択された。また、平成30年度営繕事業で「翔峰寮外壁工事」が予算措置され、平成30年10月30日に竣工した。おって、同事業で「バリアフリー対策事業」が追加で予算措置され、尚友会館1Fのトイレ工事等が平成31年3月29日に竣工した。
- ・ 学外及び学内講師による教員FD研修を6回実施し、教員個々の教育力向上を図った。
 - ① アカハラ防止及び働き方改革(H30.6.6 社会保険労務士)
 - ② 教育の質保証(H30.8.29 学内講師)
 - ③ 特別支援教育全般に関する講義・演習(H30.11.14 静岡県総合教育センター教育主査)
 - ④ アクティブラーニング関係(H30.12.19 阿南高専教授)

- ⑤ サインインと Forms から始める Office365 の活用 (H30.11.26 学内講師)
- ⑥ 自分を大事にしない若者への理解と支援 (H31.3.27 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部長)
- ・ 平成 31 年 1 月 24 日 (木) に平成 26 年度から平成 30 年 10 月末を対象期間として、会計検査院実地検査が行われ、物品等購入、工事、固定資産の取得、土地建物借入、受託研究、外部資金関係について、調書に基づき証拠書類の確認及びヒアリングを含む実地検査が行われ、本校に対する指摘事項は特になく終了した。

X.学校運営

区分項目	X010	ガバナンス・リスク管理
No.	X010-568	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-④	
具体的取組事項	①校長をトップとするリスク管理室を中心に様々な危機について迅速に対応を図る。	
実施内容	案件の発生に対し、4回のリスク管理室会議を迅速に開催して対応を行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X010	ガバナンス・リスク管理
No.	X010-574	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-⑨	
具体的取組事項	①情報セキュリティポリシーの点検、見直しを行う。 ②基幹系サーバ（Webサーバ、メールサーバ）のクラウド化の検討を行う。 ③『「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準（平成28年度版）」内閣サーバセキュリティセンターサイバーセキュリティ戦略本部2016.8.31』をもとに、クラウドにおける情報セキュリティ対策の検討を行う。	
実施内容	①高専機構内で情報漏洩が疑われるインシデントが数件発生しことを受け、機密情報の取り扱いに関する規約及び手順について再度確認を行った。また、「情報の持ち出し手順」、「成績情報の取り扱い手順」について業務ポータルにまとめ、教職員にアナウンスを行った。 ②公開用Webサーバの外部VPSサービスへの移行を検討した。 （a）コストパフォーマンス、セキュリティ及び現在のサーバシステムとの親和性の観点からさくらインターネットのVPSサービスの利用を決定。VPSサービスにデータを移行は、年度内に執行が完了する予定である。 （b）学内Webサービス及び教職員メールサービスを外部専用サーバへの移行を検討した。 （c）上記VPSサービスと同様に、コストパフォーマンス、セキュリティ及び現在のサーバシステムとの親和性の観点から外部専用サーバの設定を実行中である。 ③内閣サーバセキュリティセンターサイバーセキュリティ戦略本部の「4.1.4クラウドサービスの利用」に記載されている「遵守事項 クラウドサービスの利用における対策」(a)-(e)に基づき、VPSサービスの選定基準及び運用方針を決定した。選定基準及び運用方針は、下記の通りである。 （1）VPSの保存情報は、外部に公開する情報のみとする。 （2）VPSを管理するデータセンターは国内とする （3）現行サーバで稼働しているサービスがVPS上で問題なく稼働すること （4）WAF（Web Application Firewall）等により外部からの脅威の遮断を可能とする （5）十分な運用実績があること	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X010	ガバナンス・リスク管理
No.	X010-575	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-⑩	
具体的取組事項	引き続き総務委員会および全教員が参加する教員会議で理事長、機構からの指示を周知する。	
実施内容	2ヶ月に1度開催される教員会議で、理事長、機構からの指示を周知した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X020	コンプライアンス
No.	X020-569	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-④	
具体的取組事項	②コンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用して、教職員のコンプライアンスの向上を行う。	
実施内容	10月に全教職員を対象にコンプライアンスに関するセルフチェックを行い、全員から回答を得た。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X020	コンプライアンス
No.	X020-570	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-⑤	
具体的取組事項	内部監査及び会計系職員研修会を確実に実施し、牽制体制の強化と内部統制を図る。	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・内部監査を11月12日～30日に実施した。(物品検査は8月20日～9月28日、科研費は9月3日に実施済) ・会計系職員研修会を6月26日、9月20日、2月28日、3月19日の計4回計画どおり実施した。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X020	コンプライアンス
No.	X020-571	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-⑥	
具体的取組事項	「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を徹底するとともに、必要に応じ再発防止策を見直す。	
実施内容	「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」として、次のとおり実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業内部監査 9/3実施 ・公的研究費の不正防止に係る説明会 教員向け 7/18実施 職員向け 8/30・31実施 ・研究活動及び公的研究費の運営・管理に係る誓約書の提出 11/2までに全教職員から提出済み 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X020	コンプライアンス
No.	X020-578	
基準項目・関連番号等	年度計画「業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置」II-②	
具体的取組事項	契約にあたっては、一般競争契約を原則とし、適正な応札を行えるよう仕様策定を慎重に実施すると共に、参加業者の複数確保に一層努めて競争性、透明性の確保を行う。	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・一般競争契約を原則として仕様策定を慎重に実施した。 ・参加業者の複数確保のため公告以外にもこちらから業者へ積極的に参加を呼びかけ競争性、透明性の確保を心がけた。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X100	将来計画
No.	X100-566	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」I-4-②	
具体的取組事項	企画運営委員会で学科改組、教育体制等の見直しを行い、将来的な構想について議論を進める。	
実施内容	企画運営委員会で学科改組の剣道および教育体制の見直しを行った。学科改組の具体案については、4名の若手教員からなるWGで検討した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X100	将来計画
No.	X100-576	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」I-4-⑩	
具体的取組事項	新しい教育体制への対応のためのP/Jチームを作って検討を進める。	
実施内容	企画運営委員会を中心に新しい教育体制への対応を進めた。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X110	人事・財務
No.	X110-565	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-①	
具体的取組事項	<p>①校長の戦略的経費として、基礎から応用までの学術研究を中・長期的に発展させるべく、引続きリーダーシップ経費を措置する。</p> <p>②引続き、中・長期的な設備整備のため「校内設備整備費」を確保し、校長を主導とした企画運営委員会で審議し配分を行う。</p>	
実施内容	<p>①今年度も校長リーダーシップ経費を企画運営委員会の審査を経て配分した。</p> <p>②企画運営委員会での中長期的な視点での議論を経て、校内設備整備費を配分した。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X110	人事・財務
No.	X110-577	
基準項目・関連番号等	年度計画「業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置」Ⅱ-①	
具体的取組事項	引続き、一般管理費（人件費相当額を除く。）については機構本部の効率係数を基に配分し効率化を図る。	
実施内容	一般管理費について機構本部の効率化係数を基に配分し効率化を図った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X110	人事・財務
No.	X110-579	
基準項目・関連番号等	年度計画「予算」Ⅲ-①	
具体的取組事項	学科毎の非常勤時間枠の割り当てを続けて、非常勤講師の削減に努める。	
実施内容	限られた予算枠の中で、在外研究員、人事交流教員による所属学科への負担も考慮しつつ、教養科、専門学科、専攻科等への予算配分を行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X110	人事・財務
No.	X110-586	
基準項目・関連番号等	年度計画「人事に関する計画」Ⅶ-2-①-4	
具体的取組事項	3名の教員の定年退職に伴う、1年間の教員不補充を実施する。	
実施内容	平成29年度未定年退職者3名については、平成30年度1年間は後任を不補充とした。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X130	施設整備
No.	X130-545	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（学生支援・生活支援等）」Ⅰ-1-5-②	
具体的取組事項	①学生支援施設の充実のため、図書館改修について、要求書をブラッシュアップし前年度に引き続き平成31年度概算要求を行うとともに移行計画の検討を行う。 ②マスタープランWGにおいて、引き続き施設整備長期計画の検討を行う。	
実施内容	①図書館改修について、改修プラン検討のため専門部会を立ち上げ、要求内容にブラッシュアップを行った。 ②マスタープランWGにおいて、施設整備長期計画の検討を行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X130	施設整備
No.	X130-549	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育環境の整備・活用）」Ⅰ-1-(6)-①-1	
具体的取組事項	①安全安心のため、基幹環境整備（ライフライン更新）について、要求書をブラッシュアップし前年度に引き続き平成31年度概算要求を行う。 ②学生支援施設の充実ため、図書館改修について、要求書をブラッシュアップし前年度に引き続き平成31年度概算要求を行う。	
実施内容	①基幹環境整備（ライフライン更新）について、Ⅱ期（生活排水処理施設）、Ⅲ期（排水管路）、Ⅳ期（電気設備）の平成31年度概算要求を行うことになった。 ②図書館改修について、改修内容の専門部会を立ち上げ、改修内容のブラッシュアップを行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X130	施設整備
No.	X130-550	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育環境の整備・活用）」Ⅰ-1-(6)-①-2	
具体的取組事項	①キャンパスマスタープランワーキンググループにおいて、引き続き施設整備長期計画の検討を行う。	
実施内容	キャンパスマスターワーキンググループにおいて、施設整備長期計画の検討を行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X130	施設整備
No.	X130-581	
基準項目・関連番号等	年度計画「重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画」Ⅴ-①	
具体的取組事項	香貫宿舍跡地について、機構本部等関係機関の処分方針（売払い又は財務局への現物返納）が決定次第、速やかに処分に伴う諸手続きを実施する。	
実施内容	売払いに向けて測量を行ったが、平成30年度末に財務局への現物返納が決定した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X130	施設整備
No.	X130-582	
基準項目・関連番号等	年度計画「施設及び設備に関する計画」Ⅶ-1-①-1	
具体的取組事項	①キャンパスマスタープランワーキンググループにおいて、引き続き施設整備長期計画の検討を行う。【再掲】 ②安全安心のため、基幹環境整備（ライフライン更新）について、要求書をブラッシュアップし前年度に引き続き平成31年度概算要求を行う。【再掲】 ③学生支援施設の充実ため、図書館改修について、要求書をブラッシュアップし前年度に引き続き平成31年度概算要求を行う。【再掲】	
実施内容	①キャンパスマスターワーキンググループにおいて、施設整備長期計画の検討を行った。 ②基幹環境整備（ライフライン更新）について、Ⅱ期（生活排水処理施設）、Ⅲ期（排水管路）、Ⅳ期（電気設備）の平成31年度概算要求を行うことになった。 ③図書館改修について、改修内容の専門部会を立ち上げ、改修内容のブラッシュアップを行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X140	安全衛生
No.	X140-551	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育環境の整備・活用）」Ⅰ-1-(6)-①-3	
具体的取組事項	①高濃度PCB 廃棄物について、平成30年度に機構本部の計画通りに処分を行う。 ②低濃度 PCB 廃棄物について、引き続き適切な保管を行い、平成38年度末までの法定処理期限を見据え更新を検討していく。	
実施内容	①高濃度PCB廃棄物について、平成30年度に計画通り処分を完了させた。 ②低濃度PCB廃棄物を平成38年度末までの処分を目指し、代替品の検討、処分の必要経費の算出を行った。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X140	安全衛生
No.	X140-552	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育環境の整備・活用）」Ⅰ-1-(6)-②	
具体的取組事項	①安全衛生管理のため、年一回の講習会及び安全パトロールを継続して実施する。安全衛生に関する資格等取得者のデータベースに基づき、外部の各種講習会に教職員を順次積極的に派遣する。	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「働き方改革について」をテーマとした安全衛生セミナーを10月30日に開催し、39名の教職員が参加した。 ・第1回安全パトロールを8月、第2回安全パトロールを3月に実施した。 ・安全管理者選任時研修及び特定化学物質等作業主任者技能講習に各1名参加させた。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X140	安全衛生
No.	X140-567	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-③	
具体的取組事項	出退勤システムを活用した教職員の勤務時間の把握や過重労働の根絶等について、安全衛生委員会で状況を確認する。また、業務の改善効率化を図るために、「業務の見直し」を行う。	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・4月及び10月の安全衛生委員会で過去6ヶ月の勤務状況を確認し、長時間勤務の者には産業医との面談を実施する等、過重労働による健康障害防止対策を講じている。 ・本年度からストレスチェックをアウトソーシングし、業務の効率化を図った。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X140	安全衛生
No.	X140-584	
基準項目・関連番号等	年度計画「人事に関する計画」VII-2-①-2	
具体的取組事項	ストレスチェックを実施し、教職員の健康管理に努める。	
実施内容	・7月にストレスチェックを実施し、9月の安全衛生委員会で集団分析結果が報告された。また、高ストレス者のうち、面接指導を希望した者に対して産業医による面接指導を実施した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X200	自己点検・評価
No.	X200-001	
基準項目・関連番号等	基準1 教育の内部質保証システム (1-1-②)	
具体的取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに当該年度の「自己点検・評価実施計画」を策定する。 ・当該年度の自己点検・評価結果をまとめ、公式Webサイトにおいて公表する。 ・学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等の変化、運営諮問会議や教育システム点検委員会の改善提言を踏まえて、適宜見直しを行う。 	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年度はじめに「自己点検・評価実施計画」を策定し、総務委員会で承認し、実施した。 ・自己点検・評価結果をまとめて、公式Webサイトにおいて公表(次年度5月予定)する。 ・学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等の変化、運営諮問会議や教育システム点検委員会の改善提言を踏まえて、適宜見直しを行う。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X200	自己点検・評価
No.	X200-002	
基準項目・関連番号等	基準1 教育の内部質保証システム (1-1-③)	
具体的取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価結果等が取組みの改善・向上に結びついた事例について、当該「自己点検・評価結果報告」においてピックアップし今後の改善に活かす。 ・学校の目的及び三つの方針について、社会の状況等の変化、運営諮問会議や教育システム点検委員会の改善提言を踏まえて、適宜見直しを行う。 ・在校生、卒業(修了)時学生、一定年数後の卒業(修了)生、保護者、就職・進学関係者から聴取した意見等(アンケート等)について、必要に応じて点検・評価に反映させる。 	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は機関別認証評価を受審し、優れた取組みであると評価を受けた事例についてはさらにブラッシュアップして、継続する。 ・学校の目的及び三つの方針については、「自己点検・評価実施計画」において、組織的に見直しを行う体制が確立している。学校の目的及び三つの方針について確認し、現段階では変更せず継続することとした。 ・前年度に実施した在校生、卒業(修了)時学生、一定年数後の卒業(修了)生、保護者、就職・進学関係者から聴取した意見等(アンケート等)を分析した。 	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X200	自己点検・評価
No.	X200-533	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑤	
具体的取組事項	①各部署の活動状況や教員の研究実績、および自己点検評価をとりまとめ公表する。	
実施内容	教員の研究実績を公式ホームページに公開した。各部署の活動状況を取りまとめる実施可能な方法を検討し、実施に移した。今年度分の自己点検評価を公表した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X500	優れた教員の確保
No.	X500-517	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-①	
具体的取組事項	①引き続き採用人事は、企画運営委員会で全学的な視点からの議論を経て行う。 ②募集の際には企業経験者、海外経験者の積極的な応募を期待する旨、明記する。	
実施内容	採用人事は、主事、専攻科長、事務部長等からなる企画運営委員会で議論を経て決定し、公募により優れた教員を確保した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X500	優れた教員の確保
No.	X500-519	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-③	
具体的取組事項	①新規採用教員は、博士を取得もしくは取得見込みの者を積極的に採用する。 ②学位取得のために1名の教員（電気電子工学科准教授）を宇都宮大学に派遣する。	
実施内容	①今年度5名の教員を新規採用したが、うち3名はいずれも博士である。 ②現在宇都宮大学に内地留学しており、近日中に博士を取得予定である	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X500	優れた教員の確保
No.	X500-520	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-④	
具体的取組事項	①校長と女性教員のミーティングを引き続き実施し、ニーズに合った取組を行うとともに、引き続き女性優先公募を行う。	
実施内容	①教員公募の際には、公募要領に女性の応募を優先する旨、記載した。 校長と女性教員とのミーティングを毎年実施しており、今年度も実施した。 同居支援プログラムにおいて、女性教員2名を受入れた。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X510	教員の資質向上
No.	X510-518	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-②	
具体的取組事項	①計画通り和歌山高専に教員（物質工学科教授）を派遣する。 ②在外研究員として1名の教員（電子制御工学科准教授）を仏国に派遣する。	
実施内容	①次世代を担う優秀な若手教員を育成するため、物質工学科教授を和歌山高専に派遣した。 ②電子制御工学科准教授を仏国に派遣した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X510	教員の資質向上
No.	X510-521	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-⑤-1	
具体的取組事項	①教員相互の授業参観や教員F D研修会を実施し、教員個々の教育力向上を図る。	
実施内容	①教員相互の授業参観を実施した。授業参観を実施した教員が少ないので、より効果のある方法を検討する必要がある。教員F D研修会は6回実施した。アンケート結果を基にして、今後の実施テーマに反映させることとした。教員F D研修が教育改善に結びついた事例を調査する。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X510	教員の資質向上
No.	X510-522	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-⑤-2	
具体的取組事項	<p>②高等学校教員を対象とした「生徒指導沼駿地区研究協議会（生地研）」への参加を推進する。</p> <p>③東海北陸地区高専学生指導力向上研修会に積極的に参加・協力する。</p>	
実施内容	<p>②「生徒指導沼駿地区研究協議会（生地研）」へ学生主事または学生委員教員（風紀担当）が参加した。（第1回5月17日、第2回7月12日、第3回9月20日、第4回11月15日、第5回2月14日）</p> <p>③3月8日～3月9日に石川高専で開催された東海北陸地区高専学生指導力向上研修会へ3名の若手教員と1名の助言教員が参加した。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X510	教員の資質向上
No.	X510-523	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-⑥	
具体的取組事項	①教育や生活指導で極めて優れた活動を行った教員を本校表彰規定に基づいて表彰する。	
実施内容	①毎年優れた教員を表彰しており、今年度も実施したが、該当者はなかった。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X510	教員の資質向上
No.	X510-524	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（優れた教員の確保）」Ⅰ-1-(3)-⑦	
具体的取組事項	<p>①予定通り学位取得のために1名の教員（電気電子工学科准教授）を宇都宮大学に派遣する。</p> <p>②引き続き国際会議を含む学外での研究成果発表を奨励する。</p>	
実施内容	<p>①学位取得のために宇都宮大学に電気電子工学科准教授を派遣（内地研究員）した。</p> <p>②学内の競争的資金等を通じて、教員の研究活動を支援した。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X510	教員の資質向上
No.	X510-553	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育環境の整備・活用）」Ⅰ-1-(6)-③	
具体的取組事項	①引き続き年度初めにMBOシートを基に教員個々との面談を行い、働き易い職場作りを進める。 ②女性教員との懇談会を行い、女性が働き易い職場作りを進める。	
実施内容	①教員対象にMBO（目標管理）とそれに基づく面談を実施した。 ②女性教員との懇談会を例年通り今年度も実施した。	
自己評価 （特記事項）	A	

区分項目	X510	教員の資質向上
No.	X510-583	
基準項目・関連番号等	年度計画「施設及び設備に関する計画」Ⅶ-2-①-1	
具体的取組事項	①1名の教員を在外研究員として仏国に派遣する。【再掲】 ②学位取得のために1名の教員を宇都宮大学に派遣する。【再掲】 ③入試制度の研究を目的に1名の教員を和歌山高専に派遣する。【再掲】 ④平成31年度も派遣、交流が続けられるように議論を進める。	
実施内容	①在外研究員としてフランス国立科学研究所へ1名派遣した。 ②内地研究員として宇都宮大学へ1名派遣した。 ③高専・技科大間教員交流制度により和歌山高専へ1名派遣した。 ④企画運営委員会で検討を行い、平成31年度も在外研究員としてスタンフォード大学へ1名派遣、高専・技科大間教員交流制度により東京高専へ1名派遣することが決定している。	
自己評価 （特記事項）	A	

区分項目	X520	教育支援者の資質向上
No.	X520-572	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-⑦	
具体的取組事項	事務職員及び技術職員の能力向上を図るため、機構、国立大学法人、社団法人国立大学協会などが主催する研修会、発表会等に参加させる。 又、旅費予算の大幅な削減を踏まえ、GIネット形式を活用した研修及び講習等に参加させる。	
実施内容	・事務職員については、新任課長研修、若手職員研修等の階層別研修に該当者を参加させた。 ・技術職員については、西日本地域高専技術職員特別研修、東海北陸地区高専技術職員研修、東海北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修、第10回高専技術教育研究発表会、総合技術研究会に延べ6名を参加させた。 ・学内においてSD研修会を5回開催した。 ・沼津高専表彰規則に基づき、業務の合理化・効率化に顕著な功績があった技術職員1名を表彰した。	
自己評価 （特記事項）	A	

区分項目	X520	教育支援者の資質向上
No.	X520-573	
基準項目・関連番号等	年度計画「管理運営に関する事項」Ⅰ-4-⑧	
具体的取組事項	<p>①技術職員の人事交流を技術長会議等での検討を続ける。</p> <p>②事務職員の人事交流について、近隣国立大学等との人事交流を推進する。</p>	
実施内容	<p>①技術職員の人事交流については、技術長連絡会議において意見交換を行い、検討を続けている。</p> <p>②事務職員の人事交流については、遺伝学研究所との相互交流により、新たに1名派遣、1名受入を行った。また、昨年度から引き続き、2名の職員が静岡大学からの人事交流で在籍している。</p>	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X800	業務改善
No.	X800-585	
基準項目・関連番号等	年度計画「人事に関する計画」Ⅶ-2-①-3	
具体的取組事項	引き続き事務の合理化、簡素化を進める。	
実施内容	・昨年度に引き続き、業務の見直しプロジェクトを推進し、業務の合理化、簡素化を進めた。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X900	外部組織との連携
No.	X900-528	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-①2	
具体的取組事項	①第2ブロック校長会で進捗状況を把握し、情報共有に努める。	
実施内容	①第2ブロック校長会副主査として、ブロック全体の情報共有に努めた。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X900	外部組織との連携
No.	X900-540	
基準項目・関連番号等	年度計画「教育に関する事項（教育の質の向上及び改善のためのシステム）」Ⅰ-1-(4)-⑧	
具体的取組事項	①これまでの協定を活用するとともに、技術科学大学との共同プロジェクトを進める。	
実施内容	日本大学国際関係学部との協定を利用して、英語の非常勤講師を依頼した。豊橋技術科学大学との協働教育プロジェクトに参画し、連携教育プログラムの開設準備を開始した。	
自己評価 (特記事項)	A	

区分項目	X900	外部組織との連携
No.	X900-902	
基準項目・関連番号等		
具体的取組事項	教育後援会、同窓会と連携し、保護者や卒業生等の意見等も踏まえて、学校運営を進める。	
実施内容	校長、副校長及び校長補佐が教育後援会理事会、支部会（沼津、三島、静岡、浜松）及び部会（教育、学生、寮務）に出席し、保護者の意見等も踏まえて学校運営を進めた。また、同窓会連絡教員3名を配置し、同窓会との協力・連携体制を維持した。	
自己評価 (特記事項)	A	